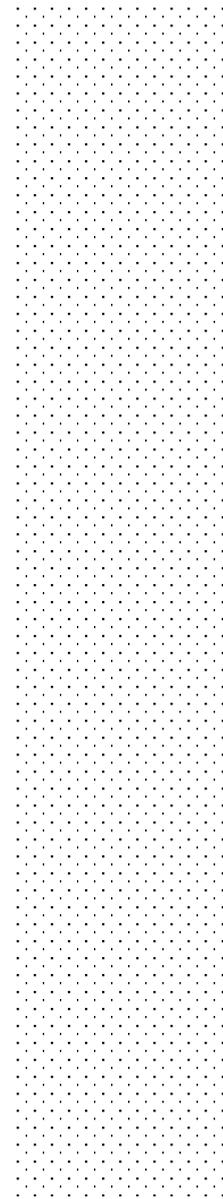


平成 29 年度事業報告書



社会福祉法人イリアンソス

目 次

I	社会福祉法人イリアンソス 事業報告	p 3
	1 法人を取り巻く情勢	
	2 平成 29 年度主な工事・備品購入概要	p 4
	3 具体的な取り組み	
	(1) 評議員会の状況	
	(2) 理事会の状況	
	(3) 広報部会の状況	
	(4) 職員研修の取り組み	
	(5) 全体家族会の取り組み	
II	部門別事業報告	p 6
	1 日中支援部門	
	(1) のぞみの家 事業報告	p 7
	(2) 活動センターかなえ 事業報告	p 14
	(3) なかまの家 事業報告	p 23
	2 生活寮部門	
	(1) 生活寮そら 事業報告	p 30
	(2) 生活寮にじ・かぜ短期入所 事業報告	p 34
	3 余暇・居宅・相談支援部門	
	(1) 放課後等デイサービス事業	p 36
	(2) 居宅事業	p 38
	ア 日中一時支援事後湯	
	イ 移動支援事業	
	(3) 相談支援事業	p 39

基本方針

- (1) 障害のある利用者一人ひとりを「主人公」とし、生きてきたそれぞれの歴史を大切に、これからの人生を共に考えていける、きめの細かい丁寧な実践をすすめます。
- (2) 職員一人ひとりが見通しと目標をもって仕事に立ち向かい、自らの成長への願いと力量を高めていくことのできる職場づくりをすすめます。
- (3) 利用者・家族・職員・役員など、法人を構成する一人ひとりの意見が決定の過程に反映され、理解と納得のもとに実行に移していくことのできる組織運営を進めます。
- (4) 時代の変化や地域の要請に応えていける法人・施設として経営基盤の確立を求めつつ新たな事業展開をしていきます。

I 社会福祉法人イリアンソス 事業報告

1 法人を取り巻く情勢

成果主義がすすむ報酬改定

今回の報酬改定は、基本報酬にも成果主義を押し進めている内容です。就労継続支援 A 型は、平均労働時間に応じて報酬が決まり、就労継続支援 B 型では平均工賃に応じた報酬となっています。長く働ける人や工賃を稼げる人を雇っている事業所が評価され、短い時間しか働けない、工賃を稼げない障害のある人たちを多く抱えている事業所は評価されない仕組みです。それ以外の障害福祉サービス事業も多かれ少なかれ成果主義を取り入れられました。また、生活介護については、3 年後に見直すとまで厚労省は表明しています。

改めて、今回の報酬改定の目的が「障害者の重度化・高齢化への対応、医療的ケア児への支援や就労支援サービスの質の向上などの課題に対応」といいつつ、その中身は冷徹な成果主義につらぬかれ、本来の社会福祉からどんどんかけ離れていくことに恐怖を感じます。

「共生型サービス」が障害福祉の基盤を壊す

4 月からはじまる「共生型サービス」は、介護保険分野の事業所が障害福祉分野に参入しやすい仕組みとなっています。最近の放課後等デイサービスにさまざまな業種が参入してきた流れを見ると、今回の「共生型サービス」により、もうけ本位の事業者が参入することは明らかです。障害のある子どもたちの生活を根底から変えてしまったように、これまでの利用者本位の支援が大きく変わってしまう不安とこれでいいのかという疑問を感じます。

わたしたちは、昨年食事提供加算廃止の動きを止める運動をすることができました。さまざまな団体とつながって声を出せば、厚労省といえども無視できません。障害者施策を取り巻く状況は、さらに厳しさを増してくると思いますが、各地域で様々な団体とつながる力をつけていくことが、とても重要となってきています。

グループホームのあり方がかわる

次に東京都の動きです。東京都における生活寮（グループホーム）制度は、国に先駆けて障害のある人のくらしの場を創設してきました。そして、国の制度に移行した中でもその欠点である日割り制度を補助制度によって補うことで生活寮の社会資源を増やすことができました。わたしたちの支援する障害の重い人でも、自由に生活の選択ができるようになり、集団生活をする生活寮、仕事や活動で頑張る通所、ホッとする自宅を彼らの社会資源として地域で暮らしています。しかし、2018 年度 10 月よりその仕組みを日割りに近づけようとしています。利用していない日は、単価を下げるということです。これは、事業所の運営だけでなく特に障害の重い人たちの暮らしを大きく制限させてしまう内容です。歴史を逆戻りさせるのではなく、障害者権利条約で保障されている「選べる暮らし」を実現していくためにも、わたしたちは東京都への運動をさらに広げることが大切になっていきています。

2 平成29年度主な工事・備品購入概要

事業名	種類	事業総額	補助金額	事業所	備考
サーバー導入	なし	1,795,500 円	—	法人本部	

3 具体的な取り組み

(1) 評議員会の状況

回数	日にち	出席者	議事内容	
1	6月20日	評議員 4名 理事 2名 監事 2名	報告	処遇改善金について のぞみの家 大規模修繕について 活動センターかなえ 共同募金会補助金によるハイエースの申請について
			審議	平成28年度事業報告(案)について 平成28年度決算報告(案)について 平成28年度監査報告について 新定款による理事・監事選出について
2	3月28日	評議員 5名 理事 2名	報告	東久留米市指導監査について のぞみの家大規模修繕について 赤い羽根共同募金(なかまの家)について 情勢報告 平成30年度事業計画(案)について 平成30年度予算(案)について
			審議	平成29年第2次補正予算(案)について

(2) 理事会の状況

回数	日にち	出席者	議事内容	
1	5月30日	理事 6名 監事 1名	報告	処遇改善金について のぞみの家 大規模修繕について 活動センターかなえ 共同募金会補助金によるハイエース申請について
			審議	平成28年度事業報告(案)について 平成28年度決算報告(案)について 平成28年度監査報告について
2	6月20日	理事 6名 監事 2名	審議	理事長選任について
3	9月26日	理事 6名 監事 2名	報告	のぞみの家 大規模修繕について 活動センターかなえ 赤い羽根共同募金補助金について 理事長報告

			審議	資格手当創設について
4	10月31日	理事 6名 監事 2名	審議	常勤職員転換規程について 常勤職員転換規程に伴う就業規則一部変更について
5	12月21日	理事 6名 監事 2名	報告	理事長報告 赤い羽根共同募金について 喫茶の運営について
			審議	補正予算について 手当について
6	2月15日	理事 6名 監事 1名	報告	東久留米市指導監査について 平成30年度障害福祉サービス等報酬改定について
			審議	喫茶の覚書について 就業規則について 苦情対応に係る第三者委員の選任について
7	3月28日	理事 5名 監事 1名	報告	東久留米市指導監査について のぞみの家 大規模修繕について 赤い羽根共同募金の助成(なかまの家)について
			審議	平成29年度第2次補正予算(案)について 平成30年度事業計画(案)について 平成30年度予算(案)について

(3) 広報部会の状況

法人の情報を伝えたり、障害福祉情勢を伝えたりする事が出来ました。写真を多用して、より伝わりやすい工夫をおこなっていきました。記事内容は地域のつながりを中心に構成していき、法人が、より身近な存在になるよう工夫していきました。ホームページでの記事閲覧も継続して、法人行事等の情報もこまめに更新して発信していきました。今後も広報部会を中心として、各事業所でアイデアを出し合いながら魅力ある中身にしていきます。

(4) 職員研修の取り組み

- ・中堅・ベテラン職員研修
- ・全体職員会議：平成29年9月9日実施 全職員を対象
「食べることを支える」
- ・第3回社会福祉法人イリアンソス事業報告会：平成29年12月22日
- ・その他、きょうされん、東京都社会福祉協議会、食品衛生研修会(保健所)、安全衛生労務管理講習会、基本介護技術講習会、普通食の再調理実技講習会、経口摂食の重要性と安全性についてなど他団体の研修会にも積極的に参加。

(5) 全体家族会の取り組み

- ・6月27日 法人全体家族会 参加者：30人 このみ

II 部門別事業報告

1 日中支援部門

重点課題

- ・通所責任者会議を軸に運営、実践、研修、運動の方針を具体化し、各事業所で取り組めるよう整理します。また、引き続き通所および生活寮との連携を強化し、利用者状況の把握や事業所運営の把握をして課題の早期解決ができるようにします。
- ・担当者会議（保健衛生、車両送迎、環境整備）は、引き続き利用者の健康と安全を保障するため、環境の改善にむけて検討します。
- ・職員は障害のある人の発達の課題と要求を学習し、日々の支援にいかします。

まとめと今後の課題

- ・今年度途中より、市役所一階喫茶事業について通所責任者会議で検討をおこないません。障害のある人たちの働く場として、また地域の方々の憩いの場としてその意義を確認し合い、開店にむけて準備進めてきました。現場の職員体制を維持するために施設長も送迎や現場に入ることを余儀なくされ、定期的な開催や十分な議論ができないこともありました。要点を絞りながら会議を行ってきました。生活寮の支援者会議は「のぞみの家」で開催することができ、今後は他の通所事業所でも開催し定例化することが求められています。
- ・概ね月に一回、保健衛生、車両送迎、環境整備の担当者会を開催することができました。また、各担当者会のリーダーとサポートする施設長を明確化し、検討事項や内容の共有化を図ってきました。
- ・新任、中堅、ベテラン職員と分けての研修会を開催は行えませんでした。しかしながら、各々の事業所で課題になっている摂食や食事の形態、また医療との連携などに対して、職員が積極的に研修会に参加し、支援に大きく生かすことができました。

担当者会の状況

・健康・衛生担当者会

今年度は法人全体で食事に力8を入れて取り組みました。専門家を含めた研修を行い、職員間でも食事に関する議論を重ねて意識を高めました。栄養士による給食会議にも各施設の職員が参加し、食形態や介助方法などの情報を共有しました。

24時間の生活を視野に入れた健康面での支援を行いました。今後もさらに家庭や寮との連携が必要になってきます。加齢による体調に変化に応じた支援ができるよう、引き続き専門職と連携をとっていきます。

・車両・送迎担当者会

各事業所でマニュアルの確認をおこなって安全運転につなげました。

車両管理については、日常点検の方法をトヨタの担当者に来てもらい、教えてもらいました。

・防災・環境整備担当者会

事故報告書・ヒヤリハットについては書くことを習慣化する為、担当者会議で各事業所の事故報告書・ヒヤリハットを確認し合いました。又、起こった内容より具体的対応策に視点を置くことで当事者意識を持って予防に向けて話し合いが出来ました。また、環境整備については年間計画を作成し、計画的に環境整備が実施できるようにしました。

防災については備蓄品について情報収集し、具体的な話し合いを進めてきましたが、購入までには至りませんでした。

(1) のぞみの家 事業報告

① 施設の運営状況

<開所日数> 247日

<在籍者数> 1日平均23.2人

<平均工賃> 月3,281円 賞与(夏2,000円)(冬3,000円)

<工賃総額> 工賃総額 1,023,760円

② 全体の重点課題

・医療と連携していきます。

具体的な方法と成果

看護師を新たに採用して、医療ケアの必要な利用者の支援も丁寧におこなえました。積極的に医療機関とつながれるように、支援担当者会議を開催して通院同行したり、風邪症状の際には速やかに通院に行ったりすることができました。

・各班の特色を活かした旅行を計画します。

具体的な方法と成果

各班で旅行の目的を改めて考えていきました。特におひさま班旅行では、利用者の体力を考慮して近場の所沢に行きましたが、内容も充実していて楽しむことができました。

・就労支援事業の見直しをおこないます。

具体的な方法と成果

仕事の環境整備をおこない、利用者が準備から片付けまで丁寧におこなえるようにしました。授産収支状況を見ながら、利用者の自治会で年二回のボーナス額を決めていきました。

・日々の記録を基に専門職と連携していきます。

具体的な方法と成果

看護記録、訓練記録を整理して、共有とフィードバックが出来るようにしました。結果として専門職と支援職員の役割が明確になり、より専門的な視点が加わりました。栄養士との連携から、給食の食形態の工夫(トロミ、刻み、食器形態の工夫)も進み、残飯も大幅に減りました。食べやすさの改善が目に見える形で表れています。

- ・第三者評価を受審します。

具体的な方法と成果

第三者評価を受審しました。結果を家族・職員・パートスタッフに配布して、全体で共有していきました。指摘内容の改善をおこなっていき、更なる専門性の向上につなげていきました。

③各班の重点課題

【チャレンジドリームズ班】

- ・ケーキ販売を通して地域とのつながりを大切にしていきます。

具体的な方法と成果

2016年度に細菌検査を終え、今年度は成分分析検査を行ないました。2020年からのラベル作成に向けて準備を進めていきます。祭り参加も例年通り行いました。新しい販売先とのつながりも大切にしていきます。

利用者一人ひとりが参加できるよう作業工程の工夫や販売計画を丁寧に立てていきました。

- ・利用者一人一人の主張・想いを尊重していきます。

具体的な方法と成果

収入と支出のバランスを考えケーキ値段改定の話し合いをしました。チャレンジ自治会(率直な意見を交わし他者の思いを知り尊重できる班作りをめざしています。班の仲間同士それぞれの強みを生かして活動しています。)

【元気なたんぽぽ班】

- ・身体を動かす活動をたくさんおこなっていきます。

具体的な方法と成果

夏季は、東村山市民スポーツセンターのプールに各班2名ずつの少グループで出掛けました。又、わくわく健康プラザの体育館や東村山運動公園にも出掛け沢山身体を動かしました。全身運動でき、身体機能の維持、体重減少、又精神面の安定、リフレッシュなどの効果が見られました。

- ・個々の力が発揮できる環境づくりをしていきます。

具体的な方法と成果

仕事については加齢に伴う体力面の変化に応じ車での回収を増やしたり、和紙作りの時間に足浴やストレッチを取り入れたりするなど、個々の状況に合った内容を考慮しました。その結果、より意欲的に仕事に取り組む姿が見られたり、安全に活動出来たりしています。創作活動では、作品展に向けて粘土に取り組みました。新たな活動でイメージが持ち難く定着はしませんでした。創作活動は好きな利用者が多いので今後も色々な創作活動を工夫していきます。

【おひさま班】

- ・一人ひとりに合わせた活動をします。

具体的な方法と成果

班全員で同じ活動をするのではなく、レクの内容や日々の活動を体調、体力に応じて考えました。心身ともにリラックスする目的のプールや電車など乗り物を楽しむレクなど、個々の要求に沿って取り組みました。そこから身体に負担なく、好きな活動を楽しむことができました。

- ・身体づくりの活動を大切にしていきます。

具体的な方法と成果

その時の課題に沿ったストレッチプログラムを理学療法士に作ってもらい、活動時間、昼休みなどに積極的に行いました。また、しっかり自分の体重を支えて立つ、短い距離も歩いて移動するなど、日々できることをていねいに取り組みました。短時間でできるプログラムのため、繰り返し行いやすく、機能の維持が見られました。

- ・就労支援事業

具体的な方法と成果

仕事が途切れないようにお客様や取引業者に対して営業の連絡を積極的におこなっていききました。おむつ販売ときょうされん物品販売は売り上げの大半を占めているので今後も売り上げ向上の為に営業活動をおこなっていきます。

<自主製品> 売り上げ 111,160円 目標 150,000円

作品展を開催して販売しました。

<ケーキ> 売り上げ 488,220円 目標 400,000円

地域への販売の継続と安全管理の為に、細菌検査を受けました。

<喫茶> 売り上げ 54,383円 目標 60,000円

リサイクル久留店での販売をおこないました。販促グッズを購入しました。

<お茶> 売り上げ 56,940円 目標 60,000円

営業を積極的におこないました。賞味期限間近の値下げをして販売しました。

<オムツ> 売り上げ 1,086,801円 目標 700,000円

管理を丁寧におこない、迅速にお客様のもとへ配達しました。

<布巾> 売り上げ 3,375円 目標 2,000円

きょうされん物品販売の時期に販売しました。

<データ入力> 売り上げ 23,078円 目標 28,000円

埼玉福祉会への仕事受注の電話をしました。

<リサイクル久留店> 売り上げ 297,252円 目標 600,000円

値段付けを計画的におこないました。目標金額の見直しが必要です。

<きょうされん物品販売>

売り上げ 1,800,727円 目標 1,900,000円

新規のお客様獲得に向けてチラシ配布をおこないました。

<牛乳パック回収> 売り上げ 24,036円 目標 30,000円

毎日、行くようにしました。卸業者へも1か月に1回行きました。

④ 具体的な活動の報告

1日の流れ

9:00	受け入れ開始
10:00	朝の会
12:15	昼食
13:30	チャレンジ班 仕事開始
14:00	おひさま班・元気なたんぽぽ班 午後活動開始
16:00	終わりの会・送迎開始

1週間の流れ

	月	火	水	木	金
午前	資源回収 和紙 絵画 パソコン ケーキ作り	資源回収 和紙 絵画 パソコン ケーキ作り	資源回収 和紙 絵画 パソコン ケーキ作り	資源回収 和紙 絵画 パソコン ケーキ作り	レク (月1回は 外出レク)
午後	ストレッチ パソコン ケーキ作り ダンス	ストレッチ パソコン ケーキ作り ボーリング	ストレッチ パソコン ケーキ作り トランポリン プール	自治会 パソコン ケーキ作り ボールプール 調理	

年間行事

	のぞみ内 行事	地域行事
4月	花見・きょうされん春物品販売	
5月	利用者健康診断	
6月	おひさま班 宿泊行事	
7月	きょうされん 夏季物品販売	特別支援学校夏祭り
8月		東京都障害者美術展
9月	たんぽぽ班 宿泊行事	いのちかがやけ作品展
10月	チャレンジ班 宿泊行事	地域センターまつり
11月	きょうされん冬季物品販売	特別支援学校文化祭 けんちの里まつり 青少協まつり
12月	ごくろうさま会 (のぞみ室内で焼肉)	のぞみの家作品展
1月		市の作品展・七福神まつり
2月	きょうされんバレンタイン物品販売	
3月	きょうされんホワイトデー物品販売 がんばろう会 (のぞみ屋外で焼肉)	

⑤ 消防計画

年2回の訓練を実施しました。1回は消防署の職員に来てもらい、通報訓練・避難訓練・消火器訓練をおこないました。消防器具点検と動作確認を全職員でおこない、消火器や通報器具の場所、動作を確認しました。

⑥ 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
チャレンジ班	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
たんぽぽ班	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
おひさま班	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

居住地別

	東久留米	東村山	杉並	合計
チャレンジドリームズ班	6	1	1	8
元気なたんぽぽ班	6	2		8
おひさま班	8	1		9
合計	19	4	1	25

生活拠点別

	自宅 (家族同居)	自宅 (1人暮らし)	生活寮	合計
チャレンジドリームズ班	2	1	5	8
元気なたんぽぽ班	3		5	8
おひさま班	4		5	9
合計	9	1	15	25

年齢構成

	性別	～20	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	計
チャレンジドリームズ班	男					1	1		1	3
	女			1	1			2	1	5
元気なたんぽぽ班	男			1	1		2			4
	女			1		3				4
おひさま班	男			2	1	1				3
	女			2	1		1	1		6
合計				7	4	6	3	3	2	25
平均年齢		男性38.1歳			女性38.5歳			合計38.8歳		

障害区分

・手帳別

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障害 者 手 帳	1種	1級	1	7	2	1	3	14
		2級		3		1		4
		3級						0
		4級		1				1
	2種	5級		3			1	4
	なし				1	1		2
	合計		1	14	3	3	4	25

・障害支援区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
チャレンジドリームズ班	4	4					8
元気なたんぽぽ班	8						8
おひさま班	9						9
合計	21	4					25

障害・疾患（医療的ケア）の内容

脳性まひ 体幹機能障害 知的障害 視力障害 聴力障害 言語障害 てんかん レノクス症候群 小頭症 脳梗塞 捻転ジストニア レット症候群 自閉症 脊髄損傷 その他

車いすの使用状況

利用状況		チャレンジ ドリームズ班	元気な たんぽぽ班	おひさま班	合計
常時使用	自力移動可	2			3
	自力移動不可	2		7	8
状況により 使用	外出時使用		2		2
	その他				
独歩	要介助	1	4	2	7
	独歩	3	2		5
合計		8	8	9	25

⑦ スタッフの状況 (平成30年3月31日現在)

各会議、打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
現場会議	正規職員、非常勤職員	毎週1回
アセスメント・モニタリング会議	サービス管理責任者、主任、担当職員	随時
各班会議	サービス管理責任者、各班主任、各班担当職員	毎月1回
保健・車両・防災	看護師(保健衛生のみ)、担当職員	毎月1回
寮ケース会議	担当職員、各寮の職員、	毎月1回

運営体制 (述べ人数)

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
サービス管理責任者	1				1	
事務	1		1		2	
支援員	4	2	16		22	
調理員			4		4	
運転手				2	2	
嘱託医		1			1	2ヶ月1回
看護師		1			1	1ヶ月2回
会計				1	1	月1回以上
労務士				1	1	適宜
清掃				1	1	年6回
合計	7	4	21	5	37	

1日の体制

職名		常勤	非常勤	パート ①	パート ②	パート ③	パート ④	合計	
施設長		1						1	
事務		1		1				2	
サービス 管理 者	チャレンジ 班	1	2		1			1	3
	たんぽぽ班		2		3				5
	おひさま班		2		4				6
給食						2		2	
運転手							2	2	
合計		7	2	1	8	2	2	22	

※パート①②（事務・実践）：9時30分～17時00分、8時30分～、9時～、10時～

パート③（給食）：8時30分～14時15分

パート④（運転）：朝、帰りの送迎時間のみ

8時30分～10時 15時30分～17時

（2）活動センターかなえ事業報告

①施設の運営状況

<開所日数> 247日

<在籍者数> 1日平均 19.33人

<平均工賃> 月平均 1,600円 賞与 [年1回] 7,200円

<工賃総額> 工賃総額 552,800円

②全体の重点課題

- ・ 利用者が増えるため、班の編成を2班から3班変更し活動内容(私有地の清掃業務など)についても見直します。

具体的な方法と成果

班の編成を2班から3班へ変更しました。レクや調理などの行事は、昨年度と同じように2グループで行うなど、利用者の様子に合わせて活動しました。新しい仕事として、私有地の整備を行いました。「草を抜く・運ぶ」など作業を分け、それぞれに合った作業ができるようにしました。作業が行いやすいよう、また安全に行えるよう軍手や草の根を切る道具などを購入しました。抜いた草の有効活用をするため、堆肥の試作をしました。来年度の製品化を目指します。

- ・ 通所を保障するため送迎車を一台増やし（助成金利用）、運転手の確保めざします。

具体的な方法と成果

助成金を利用し、送迎車を購入しました。

- ・ 利用者増に伴い、管理者との役割を分担させるため専任のサービス管理責任者を配置するとともに、正規職員を2名採用します。

具体的な方法と成果

専任のサービス管理責任者の配置を行いました。また、正規職員を2名採用しました。

- ・ 事務機能の安定化をめざし、事務職員を配置します。

具体的な方法と成果

事務員を配置しました。事務機能のより安定化をめざし、勤務時間を増やします。

- ・ 第三者評価を受審します。

具体的な方法と成果

第三者評価を受審しました。

- ・ 身体障害者の健康管理のため共同募金会を利用して車いす対応の体重計を購入します。

具体的な方法と成果

共同募金会を利用して車いす用体重計を購入しました。健康管理のため、毎月体重測定を行っています。

③各班の重点課題

【だるま班】

- ・ 新しい利用者が1名加わります。安心して安全に活動できるよう環境づくりをします。

具体的な方法と成果

安全に活動できるように利用者が気になるものなどは、鍵付きのロッカーなどに入れていきます。新しい利用者も1年を通して、かなえに慣れてきた様子です。

- ・ 自己表現できる活動として創作活動を充実させます。『グッズデザインコンクール』『ぴゅああーと展』などの作品展に応募します。また発表する場として今年度も『作品展』を開催します。

具体的な方法と成果

集中できるよう部屋を分けて創作をするなど、環境を整えました。また、画材や道具の整理も行いました。より多くの人に作品を見てもらえるように今年の作品展は市役所で開催しました。『グッズデザインコンクール』や『ぴゅああーと展』応募し、『ぴゅああーと展』では3点の作品が選ばれ出展されました。引き続き、創作活動の充実を図り、自己表現の方法については、新たな画材に挑戦するなど個々に合った形を検討していきます

- ・ 新たな作業への取り組みを開始しています。利用者それぞれにあった作業内容を検討していきます。

具体的な方法と成果

空き地整備の作業を「抜く・運ぶ」など見通しが持ちやすいように分担しながら取り組みました。また、より作業がしやすいように道具を購入しました。抜いた草の処分費用が10万円程度になる見込みの為、市と相談し来年度の見積もりに処分費用約10万円を記載しています。空き地整備では、利用者にあった取り組み方について検討し実践していきます。同時に堆肥作りも行い、製品化を目指します。

- ・ 和紙作りの作業を分担しながら取り組みます。

具体的な方法と成果

牛乳パックちぎりから紙すきまで、分担して和紙作りに取り組んでいます。安定した製品化を目指します。和紙作りでは引き続きおはながみを使用して作成しています。それぞれにあった作業工程について引き続き検討、また提案をしていきます。

【なのはなグループ】

- ・ 落ち着いて活動する事ができる環境をつくっていきます。

具体的な方法と成果

作業班を2つに分け朝の会、日中活動、帰りの会まで利用者のペースで進めていきました。無理のないように進める事により落ち着いて活動できる環境になってきています。利用者によっては気になる物があり落ち着いて活動できない時もあります。引き続き作業室や作業内容など安心して落ち着ける環境を作っていくように工夫していきます。

- ・ 仕事以外で楽しく過ごせる場を保障していきます。

具体的な方法と成果

班を2つに分けた事により利用者5名の少人数で旅行を行いました。利用者それぞれのペースでのんびりと楽しんでます。また調理も作業室で行う事により落ち着いて楽しく取り組む事ができています。引き続き旅行やレクが楽しい時間になるように行き先や内容を考えていきます。また、昼休み等の休憩時間もリラックスして過ごせるような工夫をしています。

- ・ 身体機能の維持・改善を図ります

具体的な方法と成果

医療やOTの先生と連携・相談をして活動中の注意点等を確認しています。引き続き医療やOTの先生と連携しご本人も納得の上進めていきます。

【ちゅーりっぷ班】

- ・ 混乱なく新しい作業班で活動出来るようにしていきます。

具体的な方法と成果

作業班を2つに分けました。見通しを持ちやすいようホワイトボードを使用して、朝の会で確認しています。また、前向きに作業に取り組めるよう自治会の中で役割分担を決めました。日々役割があることで次の事に見通しがもてたり、頑張ろうと思ったりする様子が見られました。

- ・ 前向きに活動へ取り組めるようにしていきます。

具体的な方法と成果

自治会で丁寧に話し合い確認をしていますが、仕事のことなどについてはできていないこともありました。落ち着いて仕事を行えるような環境を作りをしてはいますが、お喋りが好きな班です。都度、スタッフが声掛けを行いません。役割分担は引き続き自治会で話しながら、前向きに活動が行えるようにします。

- ・ 作業で完成した自主製品は年間を通して商品化し販売していきます。

具体的な方法と成果

見通しを持って作業ができていない人もいれば、できていない人もいます。今年度も販売会に参加することができました。

- ・ 身体機能の維持・改善を図ります。

具体的な方法と成果

作業療法士と相談して、利用者の現状に合ったリハビリのマニュアルの作成をしました。医療やリハビリの先生と連携し、利用者本人も納得しながら進めていけるような工夫ができています。

- ・ 就労支援事業

具体的な方法と成果

〈資源回収・おろし〉 売り上げ 175,042 円 目標 150,000 円

倉庫を利用しながら進めています。アルミ缶の回収量が少ないので今ある回収先に呼びかけをするなどさらに回収量の増加を目指します。また、回収場所の新規開拓もしていきます。

〈市報配布〉 売り上げ 348,461 円 目標 250,000 円

配布先の地域に慣れ配布するスピードが上がってきています。配布忘れなどないように確実に配布していきます。

〈空き地整備〉 売り上げ 120,000 円 目標 120,000 円

市より委託を受けて、かなえに隣接する空き地の整備を行っています。空き地の草を抜く、運ぶなどの作業を行っています。

〈情報誌ばど配布〉 売り上げ 52,218 円 目標 50,000 円

南沢2丁目と学園町2丁目合計700枚を毎月配布します。配布期日までに確実に配布していきます。車や歩行者に気を付けて安全にポスティング作業を行っています。

〈自主製品(和紙・さきおり・手芸)〉売り上げ 33,350 円 目標 20,000 円

作品展と販売会を分けて開催しました。販売会では、一般の方にも購入して頂くことができ

ました。そして今年も、利用者の絵画が一点売れました。引き続き、なかまの家と共催で開催していきます。

〈ボーナスへの取り組み〉 売り上げ 720,220 円 目標 650,000 円

きょうされんの物品販売のカタログを利用し年4回（春、夏、冬、バレンタインデー）取り組んでいます。定期的に行うことで安定したお得意先も徐々に増えています。配布先を少しずつ広げ、新規購入者も少しずつ増えているので、お得意様として定着化するように取り組んでいます。物品販売に取り組む時は、注文確認の電話を必ずします。

・その他活動について

〈調理やレクについて〉

自治会で行きたいところや作りたいメニューを決めて買い物などを全員で行いました。衛生面や安全面に気をつけながら行いました。マスクや手袋など抵抗がある人でも少しずつ慣れ着用する事ができています。レクは引き続き楽しみながら取り組んでいます。

〈旅 行〉

1泊2日で貸し切りのできる宿に泊まり、活動では経験できないことを安全に楽しめるように心がけました。また、リフト付きのお風呂がある宿を探すなどより安全に安心して過ごせるように企画しました。来年度も安心して旅行を楽しめるよう計画を立てていきます。

〈クラブ活動（フラワーセラピー）〉

生花やリースなど季節を感じることでできる作品を作ることができました。来年度も引き続き行うか自治会で確認しながら進めて行きます。

〈ウォーキング・散歩〉

イオンへペットボトルを捨てに行く等の目的を決めて歩いたり季節を感じながら歩いていたりしています。一定のリズムで歩いたりしています。引き続き取り組んでいます。

〈プール〉

安全を第一に活動に取り組み、プールでしか味わえない水の感触を楽しみながら体を動かしました。今年度はあまり行えなかったので来年度はより多く行いたいと思います。引き続き安全第一で取り組んでいます。

④ 具体的な活動の報告

1日の流れ

時 間	なのはなグループ・だるま班・ちゅーりっぷ班
9:00	受け入れの開始
10:00	朝の会・ラジオ体操 室内作業 外作業→休憩 休憩→室内作業 外作業
12:00	昼食・休憩
13:30	室内作業 外作業 (休憩) 室内作業 外作業
15:30	帰りの会
16:00	送迎開始

1週間の流れ

	月	火	水	木	金
午前	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング
午後	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・ウォーキング	・外作業 ・創作 ・ウォーキング ・自治会	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・ウォーキング

・外作業…資源回収・おろし、広報(チラシ)配布、情報誌ぽど配布、空き地整備

・室内作業…和紙製作、さきおり、手芸、広報(チラシ)折り

※自治会…週1回実施 ※調理…月1回実施

年間行事

	なのはなグループ・ちゅーりっぷ班	だるま班
4月	歓迎会(全体レク)	
5月	カラオケ(ｼﾞｯｸｽ武蔵村山店)	野川公園
6月	なのはなグループ旅行(富士周辺)	小金井公園
7月	カラオケ(ｼﾞｯｸｽ武蔵村山店)	旅行(富士周辺)
8月	お菓子作り	お菓子作り
9月	ちゅーりっぷ班旅行(埼玉・群馬周辺)	カラオケ(ｼﾞｯｸｽ武蔵村山店)
10月	カラオケ(ｼﾞｯｸｽ武蔵村山店)	カラオケ(ｼﾞｯｸｽ武蔵村山店)
11月	イオン武蔵村山店	狭山公園
12月	クリスマス会(かなえ全体レク)	

1月	カラオケ(ｼﾞｯｸｽ武蔵村山店)	深大寺
2月	入所成人を祝う会・交流会(法人全体)	
3月	いちご狩り(はっぴーいちご園)	羽村動物園

⑤ 利用者の状況(平成30年3月31日現在)

人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
なのはなグループ	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
だるま班	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
ちゅーりっぷ班	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8
合計	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	20

居住別

	東久留米市	三鷹市	合計
なのはなグループ	5	0	5
だるま班	7	0	7
ちゅーりっぷ班	7	1	8
合計	19	1	19

生活拠点別

	自宅 (家族同居)	生活寮	合計
なのはなグループ	3	2	5
だるま班	2	5	7
ちゅーりっぷ班	7	1	8
合計	12	8	20

年齢構成

	性別	～20	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	計
なのはなグループ	男	1		1		1			1	4
	女				1					1
だるま班	男	1		2	2	1				6
	女				1					1
ちゅーりっぷ班	男		1	1				1		3
	女		3			1		1		5
合計		2	4	4	4	3		2	1	20
平均年齢		男性 32.8歳			女性 33.5歳			合計 33.1歳		

障害状況

・手帳別

身体・精神障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）					
		1度	2度	3度	4度	合計	
身体・ 精神障害者 手帳	1種	1級	1				1
		2級					0
		3級		1			1
	2種	2級					0
		3級					0
		4級		1			1
		5級					0
	精神3級			1		1	
	なし	1	1	2	3		16
	合計	2	1	4	4	0	19

・障害程度区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
なのはなグループ	1	3	1				5
だるま班	6	1					7
ちゅーりっぷ班	3	4	1				
合計	10	8	2	0	0	0	20

f. 障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 自閉症 ダウン症 精神障害 てんかん レノックス症候群 脳性マヒによる体幹機能障害 ルビンスタイン・タイビー症候群 動脈管開存症 他

車いすの使用状況

利用状況		なのはな グループ	だるま班	ちゅーりっぷ 班	合計
常時使用	自力移動可				0
	自力移動不可			1	1
状況によ り使用	外出時使用				0
	その他				0
独歩	要介助	1	1	3	5
	独歩	4	6	4	14
合計		5	7	8	20

⑥ スタッフの状況（平成30年3月31日現在）

各会議、打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
現場会議	正規職員、非常勤職員	毎週1回
リーダー会議	施設長、主任、	毎週1回
各班会議	各班主任、各班担当職員	毎月1回

運営体制（述べ人数）

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
サービス 管理責任者	1				1	
事務			1		1	
支援員	5	2	10		17	
看護師			1		1	
運転手			1	1	2	
嘱託医		1			1	2か月に1回
会計				1	1	
労務士				1	1	
合計	7	3	13	3	26	

1日の体制

職名	常勤	パート①	パート②	委託	合計
施設長	1				1
サービス 管理責任者	1				1
事務		1			1
実践	なのはな	1		2	3
	だるま	2		4	6
	ちゅーりっぷ	2		2	4
運転手（一部委託）				1	1
合計	7	1	8	1	17

(3) なかまの家事業報告

① 施設の運営状況

<開所日数> 247日

<在籍者数> 1日平均 15.26人

<平均工賃> 月平均 2,000円 賞与 [年1回] 3月 9,500円

<工賃総額> 工賃総額 502,500円

②全体の重点課題

- ・利用者の障害特性や発達要求にあった支援を行います。

具体的な方法と成果

利用者の姿を捉えるために、障害や発達段階を理解することは基本です。会議の時間の中で障害や発達段階についての資料の読み合わせを月1回継続して行いました。また内部研修(佐々木先生より発達について)を行ったり、外部の研修に参加しました。そこで学んだことを個別支援計画作成時に職員と確認しながら反映させました。しかし、まだまだ理解できているとは言いがたく、引き続き学習しながら支援に反映させていきます。

- ・利用者の健康管理をしていきます。

具体的な方法と成果

健康診断や月1回の体重血圧測定を実施することができました。また専門職スタッフと連携をとり、ストレッチが必要な利用者にメニューを決め定期的にストレッチを行いました。給食では個別に食事形態を検討しながら対応しましたが、全体的に食べやすくおいしい給食が提供できるよう検討していく必要があります。通院同行では、医療機関に利用者の姿を伝えながらご家庭と一緒に確認しながらすすめました。引き続き行っていきます。

- ・職員一人ひとり目標をもって仕事にむきあいます。

具体的な方法と成果

定期的に面談を行い職員と一緒に目標などを確認してきました。法人内外の研修も受講することができました。

③各班の重点課題

【さくら班】

- ・活動の見通しが持てるよう活動前に丁寧に活動内容やバディなどを説明していきます。

具体的な方法と成果

活動内容やバディの説明を朝の会や活動前に行いました。利用者の名前とバディスタッフの名前を読み上げ、バディスタッフが誰であるか分かりやすいよう丁寧に声かけを行いました。自分の名前が呼ばれると手を上げて返事をする利用者の様子もあり、見通しが付いてきているようです。丁寧に声かけをすることで名前を呼ばれたときにバディスタッフに目が向くような姿が見られるようになりました。

- ・創作・調理等の活動内容を見直していきます。

具体的な方法と成果

調理活動では利用者の担当換えを1度行いましたが、その後は自治会などでしっかりと話し合いができず、その時のみとなってしまっています。今後どのようにして担当決めの話合いを行っていくか検討が必要です。創作活動では墨汁を使った絵の取り組みを行いました。墨汁と絵の具を合わせることで、これまでとは表情の違う作品を作ることができました。

創作・調理活動では新たな取り組みをすることで、少しずつ利用者に変化が出てきています。

【りんご班】

- ・楽しみながら活動に参加できるようにします。道具や空間の工夫をしながら活動の見直しも含めて検討します。

具体的な方法と成果

室内活動については、机を1箇所を集め活動の話しを行うと、みんな席に座り話を聞くことが出来たり、席を立ててしまう利用者も再び席に戻ってくるなど変化がみられました。外活動が多く創作の活動が設けられなかったので来年度はさらに工夫をして創作活動の充実を図ります。室内活動では、机の並べ方を工夫することで少しずつ室内活動の雰囲気も変わってきています。

- ・気分転換します。活動の中でそれぞれのペースや楽しみ方で過ごせる時間を作ります。

具体的な方法と成果

午前、午後で室内活動と外活動に分けて、気分転換ができるようにしてきました。1日室内での活動が難しい利用者も、午後は外に出て体を動かし気分転換できました。

- ・就労支援事業

具体的な方法と成果

〈資源回収・おろし缶つぶし〉 売り上げ 200,000 円 目標 250,000 円

缶つぶし機を助成で購入し、効率的に活動することができました。

〈パック整理・卸し〉 売上 12,000 円 目標 18,000 円

パック整理する箱（コンテナ）を購入しました。利用者にとってコンテナは軽く、折り畳みもでき持ち運びや保管にも便利です。

〈広報配り（東久留米市報、チラシ、情報誌ぱど配り）〉売上 390,000 円 目標 190,000 円

毎月2回の市報と毎月1回の情報誌「ぱど」、その他のチラシを配りました。

〈自主製品（さきおり、陶芸、手芸）〉売上 30,000 円 目標 20,000 円

ビンオープナーに力をいれて製作を行いました。今回も売れ行きがよく、販売会の途中で増産を行いました。

〈注文販売（お茶、ペーパー類、ふきん）〉売上 280,000 円 目標 230,000 円

お茶は注文数により送料がかかります。賞味期限内に売り切ることが難しいこともあり、販売方法を工夫し、5月の新茶の時期ときょうされんの物品販売に合わせ、年に4回期間を決

めて販売することになりました。来年度にかけて経過をみていく必要があります。

〈ボーナスへの取り組み〉 売上 610,000 円 目標 400,000 円

地域情報誌を配っているエリアを新たに加えたところ、新規のお客様の売上が増えました。

・その他の活動

〈自治会〉

レクリエーションや旅行、行事などの行き先や役割を話し合いで決めました。ボーナスの取り組みについてや、ボーナスがどれくらいになるのか発表しました。

〈調理活動〉

新たなメニューに挑戦しました。事故、怪我等なく楽しく活動できました。

〈創作活動（陶芸・絵）〉

年間スケジュールを立てて活動を行い、新しくたたらに挑戦しました。絵の活動では墨汁を使った取り組みを行い今までと違った作風の絵ができました。

〈レクリエーション、旅行〉

自治会で決め今までに行ったことのない場所にも出かけました。旅行は、安全に出かけることができました。

〈ウォーキング プール活動〉

ウォーキングする時間を取り入れました。はじめは行けない利用者もいましたが回数を重ねることで目的地まで行けるようになっていきます。プールは体を動かす活動で定着しています。体調不良などでプールに入れない時は、散歩などで体を動かしています。また、安全面の確保のため来年度はスタッフ体制の見直し、検討が必要です。

④ 具体的な活動の報告

1日の流れ

時 間	りんご班・さくら班
9 : 0 0	受け入れ開始
10 : 0 0	朝の会・ラジオ体操 室内作業 外作業 (休憩)
1 2 : 0 0	室内作業 外作業 昼食・休憩
1 3 : 3 0	室内作業 外作業 (休憩)
1 5 : 0 0	室内作業 外作業 帰りの会
1 6 : 0 0	送迎

年間行事

月	さくら班	りんご班
4月	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）
5月	サイボクハム 昼食（施設内売店）	サイボクハム 昼食（施設内売店）
6月	旅行（新潟県津南方面）	ドライブ（多摩湖） 昼食（とんでん清瀬店）
7月	ららぽーと立川立飛（ショッピング） 昼食（ららぽーと内レストラン）	ららぽーと立川立飛（ショッピング） 昼食（ららぽーと内レストラン）
8月	室内でお菓子作り	室内でお菓子作り
9月	巾着田 昼食（バーミヤン東久留米店）	旅行（新潟県津南方面）
10月	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）
	『いのちかがやけ』出展、活動センターかなえと合同で作品展（市民プラザ）	
11月	昭和記念公園 昼食（園内のレストラン利用）	昭和記念公園 昼食（園内のレストラン利用）
	活動センターかなえと合同で販売会（マルフジ東留米店内）	
12月	忘年会（なかまの家）	
1月	東伏見神社（初詣） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）	東伏見神社（初詣） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）
2月	交流会（こもれびホール） 『ぴゅああーと』出展	
3月	航空公園 昼食（とんでん清瀬店）	航空公園 昼食（とんでん清瀬店）

⑤ 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
さくら班	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
りんご班	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
合計	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

居住地別

	東久留米市	西東京市	清瀬市	合計
さくら班	8	1		9
りんご班	6		1	7
合計	14	1	1	16

生活拠点別

	自宅 (家族同居)	自宅 (1人暮らし)	生活寮	合計
さくら班	5		4	9
りんご班	6		1	7
合計	11		5	16

年齢構成

	性別	～20	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	計
さくら班	男			1		2	1	2		6
	女			1		1	1			3
りんご班	男			2		2	1			5
	女			1		1				2
合計				5		6	3	2		16
平均年齢		男性 39.3 歳			女性 36.2 歳			合計 38.3 歳		

障害区分

・手帳別

身体障害者 及び知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障 者 手 帳	1種	1級		1	1			2
		2級		2				2
		3級		1				1
	2種	2級						0
		3級		1				1
		4級						
	なし			9	1			10
合計			14	2			16	

※精神障害者手帳所持者（3級）1名

・障害程度区分別

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
さくら班	5	3	1				9
りんご班	7						7
合計	12	3	1				16

障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 てんかん 自閉症 ダウン症
 第五染色体異常症 脳性マヒによる体幹機能障害 その他

車いすの使用状況

利用状況		さくら班	りんご班	合計
常時使用	自力移動可		1	1
	自力移動不可		1	1
状況により 使用	外出時使用	1		1
	その他	1		1
独歩	要介助	5	5	10
	独歩	2		2
合計		9	7	16

⑥ スタッフの状況（平成30年3月31日現在）

各会議、打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、職員	毎月2回
リーダー会議	施設長、サービス管理責任者、各班主任	週1回
現場会議	職員	毎月2回
健康・防災・車両 きょうされん	担当職員	毎月1回

運営体制（述べ人数）

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
サービス管理責任者	1				1	
事務		1			1	
支援員	3	1	8		12	
運転手				1	1	
看護師			1		1	月2回
嘱託医		1			1	3ヶ月に1回
作業療法士		1			1	月1回程度
会計				1	1	
労務士				1	1	
合計	4	4	9	3	20	

1日の体制

職名		常勤		パート	委託	合計	
施設長		1				1	
事務		1				1	
サービス 管理者	さくら班	1	2	3		1	5
	りんご班		2	2			4
給食					1	1	
運転手					1	1	
合計		7		5	2	13	

※パート（実践）：8時30分～、9時～、状況によっていろいろ、～15時30分、～16時30分、～17時

※委託 給食運搬（配膳）：11時30分～13時

※委託 運転手（運転）：朝・帰りの送迎のみ 8時30分～10時、15時30分～17時、

2. 生活寮部門 事業報告

生活寮部門 重点課題

- ・責任者会議とユニット会議で情報共有を行い支援内容の理解を深めていきます。
- ・業務マニュアルの整備や支援内容の振り返り等、会議や普段のコミュニケーションの場を通してユニット単位ではなく部門単位で行うことで意見・質問を出しやすい環境をつくり、風通しの良い職場環境を整備していきます。また、魅力ある職場づくりをめざし、人員の確保と長く働ける環境作りを考え、採用計画を組んでいきます。
- ・外部研修や見学など積極的に取り入れ、常に入居者を軸に考えた支援を行えるよう人材育成に力を入れていきます。

具体的な方法と成果

今年度は職員間での会議の種類を区別することで、より運営的な課題、支援的な課題を明確にすることができました。

責任者会議を設けたことで、日中事業所との連携や設備関係などの運営面・支援面での課題の把握・解決などの方向性を確認し合いました。その内容を、職員会議を通して職員全体に提案・課題を投げかける事で、一人ひとりが考え、話し合い、取り組むまでの流れが作りやすくなりました。ユニット会議では、より各ユニットでの支援内容・課題に的を絞り、細かいケースでも話し合える環境を整えることができました。

また、外部の研修や事業報告会などへの参加も以前に比べ増えたことで、自分たちの支援の振り返りや比較・新しい考察などにも繋がってきています。

しかしながら、十分な人員の確保にはいまだに至っておらず、具体的な採用計画の立案と実行が今後の大きな課題となっています。また、研修や他法人への見学などに関しても年間スケジュールに組み込むなど計画性を持って取り組むことで研修・見学会の参加率を上げ、人材育成にもより力を入れていけるよう努力していきます。

(1) 生活寮そら事業報告

重点課題

- ・入居者一人ひとりがその人らしい生活を送るための支援をします
入居者支援は、個別支援計画を基に一人ひとりの生活に目を向けた取り組みを行なっていきます。それぞれニーズや状況に合わせて、必要な場合は通院同行や訪問看護の受入れなど医療支援の充実を図ります。また、ガイヘル事業者とケース会議などを通して余暇の充実や健康面での情報共有を図ります。
- ・4つのユニットの職員が情報を共有し合うことを大切にします。
月に1度の全体職員会議の他に、ユニット会議（うみそら・にじかぜ）を定期的(月に1度)に開催します。また、週1回の責任者会議を設け、各ユニット・事業所間の状況を把握できる仕組み等を充実させていきます。
- ・365日利用に対応した体制づくりを検討していきます。
うみそら・にじかぜに責任者を設け、各ユニットの入居者の様子や状況に沿った支援体制

を作っていきます。また、日中部門の会議に参加するなど事業所との連携を深めるとともに、家族や医療機関との情報の共有をより一層大切に取り組んでいきます。

具体的な方法と成果・今後の課題

今年度も引き続き個別支援計画を基にそれぞれのニーズに合わせた生活基盤の構築を進めてきました。支援内容として、健康面では今まであまり医療との関わりが薄かった入居者への通院同行や胃ろうやタン吸引などの医療的ケアを受ける入居者への対応（研修・資格取得など）を行うことで、地域生活が送りやすくなるように環境整備を行うことができました。また、日々の支援の中で入居者本人からの希望を受け、財産の保護を目的とした家族間での話し合いの場を設けたり、年金の受け取り方の変更などの手続きを行うなど法人内だけでなく行政とも相談・連携をとりながら本人・家族・GHで財産管理の方法の形づくりを行うことが出来ました。

設備面では、当初事業計画通りに生活寮うみそらの外スロープ・階段に手すりを設置することができ、送迎時の歩行補助ができるようになり転倒などの怪我対策を行うことができました。

今後の課題としては、少しずつ進んでいますが、それぞれのご家庭のケースに合わせ、日中部門と連携し、ご家族での通院が困難な場合の通院代行・同行、相談を受けるなど入居者個人の支援だけではなく、家族も含めた入居者を取り巻く環境の包括的な支援に取り組み365日体制を作っていけるよう環境を整えていくこととなっています。また、アセスメントの掘り下げや余暇の充実など引き続きの課題も進めていきます。

①施設の運営状況

<開所日数> 365日
 <在籍者数> 28人

②利用者の状況（平成30年3月31日現在）

人数構成

うみ（共同生活援助7名） そら（共同生活援助7名）
 にじ（共同生活援助7名） かぜ（共同生活援助7名）

日中活動の場

	法人内			法人外	一般就 労	合計
	のぞみ の家	活動センタ ーかなえ	なかま の家	福祉作 業所		
うみ	3	2	1	0	1	7
そら	4	2	1	0	0	7
にじ	3	1	2	1	0	7
かぜ	2	2	2	1	0	7
合計	12	7	6	2	1	28

年齢構成

	性別	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	合計	平均
うみ	女	0	0	0	1	1	4	1	7	48.0
そら	男	0	0	1	1	4	0	1	7	43.4
にじ	女	0	1	1	3	1	1	0	7	38.6
かぜ	男	0	1	3	1	2	0	0	7	35.9
合計		0	2	6	6	8	4	2	28	41.5

居住地別

	東久留米市	東村山市	清瀬市	西東京市	合計
うみ	6	1	0	0	7
そら	6	0	1	0	7
にじ	6	0	0	1	7
かぜ	7	0	0	0	7
合計	25	1	1	1	28

障害状況

・障害程度区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	なし	合計
うみ	5	2	0	0	1	7
そら	6	1	0	0	0	7
にじ	7	0	0	0	0	7
かぜ	6	1	0	0	0	7
合計	23	5	0	0	1	28

・手帳別

身体障害者 及び知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障害者 手帳	1 種	1級	1	5	1	3	0	10
		2級	0	3	0	0	0	3
		3級	0	0	0	0	0	0
		4級	0	0	0	0	0	0
	2 種	4級	0	1	0	0	0	1
		5級	0	0	0	0	0	0
		なし	1	10	2	1	0	14
	合計	2	19	3	4	0	28	

障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 てんかん レノックス症候群 自閉症
 脳性マヒによる体幹機能障害 ダウン症 小頭症 精神障害 その他

車椅子の使用状況

利用状況		うみ	そら	にじ	かぜ	合計
常時使用	自力移動可	0	0	0	0	0
	自力移動不可	3	2	1	1	7
状況により使用	外出時使用	0	0	1	0	1
	その他	0	0	0	0	0
独歩	要介助	0	0	0	0	0
	独歩	4	5	5	6	20
合計		7	7	7	7	28

③スタッフ状況

運営体制（延べ人数）

	常勤職員	非常勤職員	パート	委託	計	備考
寮長	1	0	0	0	1	
サービス管理責任者	1	0	0	0	1	
事務	1	0	0	0	1	
うみ	2	0	8	0	10	
そら	2	1	5	0	8	
にじ	2	0	4	0	6	
かぜ	2	0	5	0	7	
嘱託医	0	0	0	1	1	適宜
会計士	0	0	0	1	1	月1回以上
労務士	0	0	0	1	1	適宜
清掃	0	0	0	1	1	週2回
計	11	1	22	4	38	

日課表

日勤：08：30～17：15 （07：00～15：45）
 早番：07：00～10：00 （06：00～10：00）
 遅番：15：45～21：00 （15：45～23：00）
 夜勤：15：45～翌日10：00 （2時間30分の休憩を含む）

勤務例として

スタッフA	月	火	水	木	金	土	日	計
	夜勤		夜勤		早番： 遅番			
	16h		16h		8h			40.0h

スタッフB	月	火	水	木	金	土	日	計
		夜勤		夜勤		早番： 遅番		
		16h		16h		8h		40.0h

行事・レクリエーション

- ・クリスマス会（12月）
- ・誕生日献立（利用者誕生日）

各会議・打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
生活寮責任者会議	施設長、サビ管、他	毎週1回
ユニット会議	うみそら職員・にじかぜ職員	毎月1回
ケース会議	各ユニットの職員	適宜

（2）短期入所事業報告

重点課題

- ・それぞれの利用者のニーズに沿った支援を行ないます。
利用日や支援について関わるスタッフと情報を共有しやすい仕組みを作っていきます。
- ・85%の稼働率を目指します。
計画相談と連携を図り、ニーズの掘り起こしを行ないます。
また、昨年度は人員の確保が出来ず体制が整わなかったことから一部受付が出来なくなりましたが、人員確保をし開所できる日を増やしていきます。

具体的な方法と成果・今後の課題

昨年度後半に引き続き体制を整えることが出来ず、一部受付が出来ていないことを受け、今年度の利用稼働率は平均で49.6%と低い水準となってしまいました。そんな中ですが、年度の後半では緊急時の受け入れなど日中部門の協力を仰ぎながらですが、対応できる日も徐々に増えてきています。

また当初、利用時はほとんど眠れず朝を迎えていた方が数時間熟睡できるようになった、寮内に入るのに気持ちの切り替えに時間が掛かっていた方が自分の部屋のようにのんびり楽しそうにテレビを観て過ごせるようになったなど利用者の方の力が大きいものの定期的に利用されている利用者につきましては、「泊ってみよう」から「生活してみよう」と生

活の一部に短期入所が位置づけられるように、利用者本人が安心して過ごせるよう一人ひとりに寄り添った支援を考え、職員間だけでなく、日中作業所と連携しながら環境を作っていくことができました。

今後の課題としては、開所日を増やすことで、稼働率が引き上げられるように早急に体制を確保することを目指します。また、新規利用者の受け入れも積極的に行っていきます。

①施設の運営状況

<開所日数> 190日

<定員> 2名

②利用者の状況 (平成30年 3月31日現在)

月	利用可能日①	定員②	合計利用可能数 ③ ①×②=③	利用状況④	稼働率⑤ ④/③×100= ⑤
4月	16	2	32	16	50.0%
5月	16	2	30	13	40.6%
6月	17	2	36	16	47.1%
7月	16	2	30	16	50.0%
8月	16	2	28	16	50.0%
9月	15	2	30	15	50.0%
10月	17	2	32	15	44.1%
11月	16	2	28	17	53.1%
12月	16	2	28	16	50.0%
1月	15	2	30	16	53.3%
2月	15	2	32	16	53.3%
3月	16	2	34	16	50.0%
合計	190	2	380	188	49.6%
平均値	15.4	2	31.7	15.6	

※利用可能日については、現在、入居者のいる日で月～木の週4日間となっている。

3 余暇・居宅・相談支援部門

(1) 放課後等デイサービス事業報告

① 施設の運営状況

<開所日数> 242日

<在籍者数> 49人

まとめ

今年度も年齢・学年別の活動を取り入れましたが、一人ひとりに快適な居場所を提供したいと考え年齢、学年にはとらわれない活動も行いました。その中でお互いを意識したりやり取りも少しずつ増えてきています。手を使うことで操作性を高める活動を昨年度から取り入れた結果、こども達自身から考えて創作をする場面も増えてきています。長期休暇の時は、みんなで協力して食事作りをして仲間意識を育てたり、買い物をしてお金の使い方、調理では量を計ったり、昼食作りを通して学習を行いました。長期休暇のつどに継続して行っている活動なので、自分の家で作ってみたり野菜の苦手な子の偏食改善にも繋がりました。

② 利用者の状況（平成30年3月31日現在）

a. 人数構成

<登録者数> 49名

<1日の活動者数> 10名

b. 居住地別

<利用者居住地> 東久留米市49名

c. 年齢構成

	性別	未就学児	小学1～2年	小学3～4年	小学5～6年	中学1～3年	高校1～3年	合計
利用者	男	1	3	10	7	8	6	34
	女	2	1	1	2	7	1	10
合計		3	4	11	9	15	7	49

d. 障害状況（手帳別・障害程度区分別）

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体障害者手帳	1種	1級		1				1
		2級	1	1				2
		3級			2			2
		4級			1			1
		5級						
	2種	1級						
		2級						
		3級						
		4級						
		5級						
	精神3級						1	1
	なし		1	15	10	8	8	42
	合計		2	17	13	8	9	49

e. 障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 てんかん レノックス症候群 自閉症 脳性マヒによる体幹機能障害
ダウン症 精神障害 その他

おもな学校

東京学芸大附属特別支援学校、清瀬特別支援学校

東久留米市立第三小学校 すずかけ学級・普通学級

東久留米市立第七小学校 しらゆり学級、東久留米市立神宝小学校 わかば学級

東久留米市立南町小学校 たけのこ学級

③スタッフの状況

a. 運営体制

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
事務			1		1	
支援員	2	1	15		18	
運転手						
看護師						
会計				1	1	
労務士				1	1	
合計	3	1	16	2	22	

※「」内は兼務

b. 放課後等ディサービスの1日の流れ

授業日	13:30～	送迎	休業日	10:00	活動開始
	15:15～17:30	活動開始		12:00	お昼
	17:30	あいさつ 送迎		13:30～15:30	午後活動開始
	18:00	家族お迎え		15:30～	あいさつ 送迎
				16:00	家族お迎え

c. 年間行事

5月	こどもまつり
7月	清瀬特支夏祭り イリアンソス夏祭り
8月	夕涼み会 おひさまサンサンフェスティバル
9月	いのちかがやけ作品展
10月	他事業所合同ハロウィンパレード
12月	にぎやかカーニバル
3月	ぽかぽか春の集い

d. 各会議・打ち合わせ

職員会議	施設長、正規職員	隔週1回
現場会議	正規職員・主任	毎週1回

(2) 居宅事業

ア 日中一時支援事業

まとめ

今年度もわかくさ学園発達相談室と連携して、未就学児を抱えて悩んでいる母親やわかくさ学園に入園できなかった子どものサポートを午前中におこなってきました。母親や子どもたちにとって居心地の良い環境を作り子育て相談もおこないました。

今後も要望が増えてくることが予測されます。

学校に通う事が難しい子どもたち（不登校）への登校支援をおこない、時間をかけて支援する中で子ども自身から折り合いをつけて学校にも通うようになりました。引き続き、安心できる場所を提供していきます。嬉しいことに、以前このみを利用していた子どもたちが中高生になり、このみの活動に興味を持ち、利用者としてではなく活動の手伝いをしたいというボランティアの方も活躍してくれこのみの活動を支えてくれました。各学校・障害福祉課・子ども家庭支援センター・児童相談所、発達相談室と連携を密に行っていく中で支援の仕方を確認し合い、連携することができました。

イ 移動支援事業

まとめ

依頼ごとに目標、テーマを決めて支援を行いました。子どもが一人で登下校できるための支援を、移動支援事業で対応してきました。具体的には、事前に家庭や学校とやり取り

した上で、下校時に本人と距離を取りながら後方からの見守り支援を行いました。その結果、数名の利用者は一人通所ができるようになり、そこから自信がつき様々な活動にも積極的な一面が増えてきました。本人の持っている力を引き出す大切さと難しさ。を考えることができました。移動支援を行っている人の支援中の留意点など詳細を作成したことで統一した支援を行うことができました。

成人に関しては、平日には定期健診の支援を行いました。毎週土曜日には定期的に支援を行うことができました。生活寮の担当者、他の移動支援事業者間でも連携を取ることができました。

(3) 相談支援事業

まとめ

現在、特定相談支援事業を行い法人内の利用者の「サービス等利用計画」を作成してきました。年度初めには、切り換え時期を迎えた利用者の対応を行い、相談支援ソフトを活用して、施設ごとの「個別支援計画」と連動していくことめざしてきました。しかし、スタッフ不足の中、相談支援ソフトを使ったシステムづくりを進めることはできませんでした。そのため、「サービス等利用計画」の作成だけにとどまってしまいました。また、東京都相談支援従事者研修の初任者研修、現任研修にかかわることで、相談支援のスキルアップを計ることができました。引き続き東京都の研修にかかわっていきます。

特定相談以外の相談については、特に生活寮における暮らしの場面で対応することが多く、今後もさらに増えてくことが予想されます。地域で障害の重い人が暮らしていくうえで様々な困難を抱えていくと考えられますが、一つひとつ多くの人たちの協力を得ながら解決していくことが大切だと考えます。

